

千葉県社保協通信

2021年度 No.11 2021年 10月 29日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉サカビル 3F

TEL : 043-225-6790 FAX : 043-221-0138 Eメール syaho2006@star.ocn.ne.jp

国に言いたいこと

“救い求める声 受けとめて”

コロナ災害を乗り越える いのちと暮らしを守る

10.23なんでも電話相談会 千葉労連会場

選挙期間中の取組みであったことから、NHKの全国報道がされない中、ネット情報などで知った人たちから、千葉労連会場には県外も含め5件の相談が寄せられました。



12時～20時まで弁護士1人・労働相談員4人、あわせて5人が寄せられた相談に対応しました。

寄せられた相談は～▼生活保護を受けて4年、妻とは離婚。再就職できずに破産手続きをすすめている。(40代男性) ▼母親の介護のため、本来の事業が十分できず収入減。年金加入していない。(60代女性) ▼うつ病で障害者年金の申請をしたが断られ、小口資金、少額給付は利用したが生活できない。国に言いたい。救い求める声を受けとめてほしい(50代男性)・・・等

千葉労連労働相談センター相談員の中林正憲さんは「2人の子どもを抱え、介護の仕事からスキルアップをめざしている30代の女性の相談を受けました。看護学生として来年3月の卒業まで何とか乗り切るための制度や方法を探しました」「コロナ禍で頑張る人が報われる社会であってほしいと思いました」と話しました。

選挙に行こう！

政権交代で

憲法・いのち・暮らしを守る政治に！！

県社保協・消費税廃止連絡会・憲法共同センター

衆議院選挙の真っ只中の26日昼休み、千葉駅さごう側で定例宣伝を行いました。「消費税は社会保障のためと言いながら、医療費負担は増加、公立・公的病院の統廃合、保健所の削減など自公政権下で社会保障は次々と削り、病床削減に応じた医療機関に消費税を財源にした補助金を出すという法律まで作りました。賛成したのは自民、公明、維新など。税金の使い方を見直すため声を上げましょう」と訴えました。



土建・労連・千商連・私教連
・自治労連・共産党・社保協
の7団体十一人が参加。署名
は9筆寄せられました。

県民のいのちと健康を守り、

地域医療体制の充実を求めます！！

一県社保協・県民連絡会が要望書提出

27日、県社保協は公立病院と地域医療を守る千葉県連絡会とともに県知事宛に24項目に亘る要望書を提出しました。

コロナ禍で、医療・介護事業所をはじめ保育・福祉関連施設の経営も悪化し、働く人々の心身の疲弊も極限に達しました。あらためて、住民のいのちと暮らしを守る自治体本来の役割発揮が求められています。

本来、コロナ患者への対応でも重要な役割を果たすべき公立・公的病院について、国が「統合・再編」をすすめていることについては、地方6団体や医療関係団体からも不安と懸念の声が上がっています。

国の社会保障削減・抑制策の具体化を許さない取り組みと同時に、県民の医療・介護・福祉・公衆衛生の充実と、全国的に最低水準と指摘されているこの分野の行政水準の改善を求め、担当課との懇談と文書回答を求めました。

● 懇談予定 / 11月18日(木) 10時～